

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	大同特殊鋼株式会社		
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	名古屋市東区一丁目1番10号		
工場等の名称	大同特殊鋼株式会社 築地テクノセンター		
工場等の所在地	名古屋市港区竜宮町10番地		
業種	製造業		
業務部門における 建築物の主たる用途	工場		
建築物の所有形態	自社ビル等(自ら所有し自ら使用している建築物)		
事業の概要	特殊鋼の粉末製品の製造		
計画期間	令和4年4月1日	～	令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

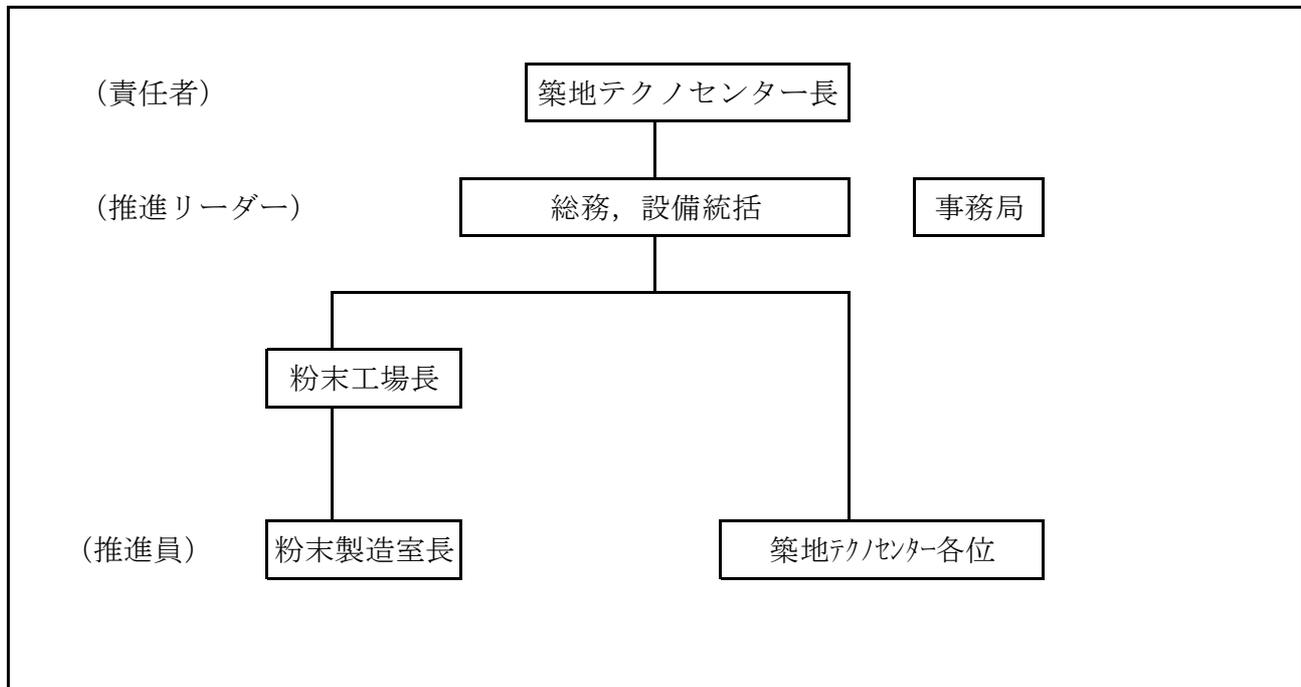
公表期間	令和5年7月28日			～	令和5年10月26日
公表方法	○	掲 示 閲 覧	(場所)	(場所)	事務所:ハート 1階
		ホ ム ペ ー ジ			(HPアドレス)
		冊 子			(冊子名・ 入手方法)
		そ の 他			(その他詳細)
公表に係る問合せ先	052-691-5181				

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

- 2020年11月にはCO2削減プロジェクトを結成し、2021年4月にはCO2削減の中長期の取組みとして2030年では、2013年度対比50%削減、2050年ではカーボンニュートラルを目標とした。
- また、環境・気候変動リスク対応組織として、サステナビリティ委員会の運営部門として新たに「ESG推進統括部」を2023年1月に設置した。その配下にCO2排出量削減の企画、全社への展開及び推進強化を図る組織として従来のCO2削減プロジェクトを「地球環境対策推進室」と改め、設置した。
- 築地テクノセンター（企業内工業団地）の効率運用を図り、工場運営のためのエネルギー使用量の抑制を進める。
- 自社（粉末工場）及び関連会社の製造工程におけるエネルギー使用方法を改善・推進し温暖化ガスの排出抑制を図る。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		7,106	t-CO ₂
（温室効果ガス除く炭素換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		7,106

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
温室効果ガス総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂				
削減率（対 基準年度）			%	%	%	%	%	%
温室効果ガスみなし総排出量					t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）					%	%	%	%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
原単位あたりの排出量	0.8616	t-CO ₂ / t	0.9219	t-CO ₂ / t	0.7205	t-CO ₂ / t	t-CO ₂ / t	t-CO ₂ / t
削減率（対 基準年度）			▲ 7.0	%	16.4	%	%	%
原単位あたりのみなし排出量					t-CO ₂ / t			
削減率（対 基準年度）					%	%	%	%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

電動車向けリアクトル製品等の高付加価値製品（熱処理品）比率は、令和 4 年度はまだ令和 3 年度と同程度であり、原単位悪化影響は無い。一方で既存製品の電力効率運用とエネルギーロス m i n の取り組みにより令和 4 年度は16.4%の t-CO₂/t 削減。

- 備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考 3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考 4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

指針第 2 号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

--